

大正のモダニスト／西村伊作



今回の企画は西村伊作を中心に人間の生き方を見ようとするものです。人間の生き方は色々であるが、伊作の生き方の「生活を芸術として」は、悦び、愉しむという贅沢な、そして誰にでも出来る質素な贅沢なのです。それは美の贅沢です。例えば伊作は自分で創った学校で若者達に道徳を教える代りに美を教える。

美しいから善なのであり、醜いから悪であり、そこには既成の善悪を教えることをしない。

ひとの作った決まりを鵜呑みにしないで先ず自分で考える。その考える時に美の感性が加わる。そしてなるべく自由に！

伊作はみんなの嬉しそうな顔、そんな社会を創りたかった。現代人の忘れてきた幸福、それをもう一度考えたい。

館長 西村八知



西村伊作 1940年頃

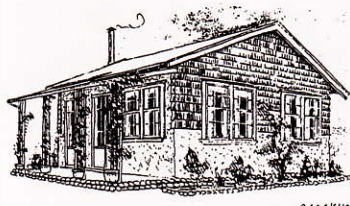
西村伊作（1884-1963）は和歌山県新宮市に生れ、幼くして熱心なクリスチャンであった両親を震災で失い、山林主の母方の西村家の養子となり、その遺産を引継ぎました。青年期から独学で絵を描き、陶器をつくり、欧米のモダンリビングを取入れた自邸を設計して住み、またアメリカ留学を終えて帰国した医師である叔父大石誠之助と本格的に生活の改善、欧米化を推進しました。

多くの芸術家たちと交わり、「生活を芸術として」を実践すると同時に多くの著作によって大正期の人々に新しい生活を啓蒙し続けました。

家庭生活を大切にされた伊作は、教育にも熱心に取組み、やがて1921年（大正10）私費を投じて東京神田駿河台に現在も自由な教育で知られる「文化学院」を設立し、生徒一人一人の個性を尊重し、自由に育む教育を実践しました。その自由さは戦前二度にわたり公権力の弾圧を受けますが、自らの理想を貫き通した生き方は、大正期を代表するモダニストとして、現在もなお多くの人々に感銘を与えています。



生活改善をめざして開店した太平洋食堂



1906年 最初の自邸



伊作の著作



伊作とその家族 1925年（大正14）



院學化文
規規ひ及書送思

文化学院創立時の規則書 1921年

入館料：一般 800円 大・高 600円 中・小 400円

開館期間：7月3日(土)～10月30日(日)土日祝のみ開館
10:00～17:00 (夏期 ～18:00)

※入館は閉館の30分前まで

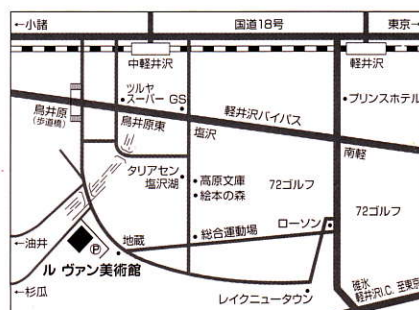
無休期間：夏期 7月15日(木)～9月15日(水)

カフェテラス：“Rolling Pin”

ミュージアムショップ：Le Vent

協力：西村記念館／神奈川県立近代美術館／
和歌山県立近代美術館

- JR長野新幹線「軽井沢駅」下車
または、乗継ぎしなの鉄道
「中軽井沢駅」下車車で3km
※夏期は両駅より路線バス運行
- 上信越自動車道「碓氷・軽井沢IC」
より12km
軽井沢バイパス18号「鳥井原」
交差点（歩道橋）より杉瓜方向へ
1.5km
- 駐車場 20台収容



このチラシをご持参の方は4名様まで割引致します。